

# 昭和大学藤が丘病院 藤が丘リハビリテーション病院だより 第9号

第9号【2009年12月】  
発行者：昭和大学藤が丘病院  
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院



【巻頭言】	『新体制発足にむけて』 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 院長 嶽山陽一
【お知らせ】	『外科系診療体制について』 外科系診療科責任者 准教授 筒井廣明 『内科系診療体制について』 内科系診療科責任者 准教授 橋本 通 『リハビリテーション診療科について』 リハビリテーション診療科 教授 水間正澄 『眼科移転について』 眼科 教授 谷口重雄
【誌上セミナー】	『とびひについて』 皮膚科 講師 内田隆夫
【TOPIC】	『税の相談会について』 『クリスマスコンサート開催について』

## 巻頭言：『新体制発足にむけて（3診療科体制と眼科の移設について）』

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 院長 嶽山陽一



大変凌ぎ易い季節となり、皆様方におかれましても益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、当院は本年9月から診療体制を新たに組み直し、新体制で今後の医療活動に臨むことになりました。

御挨拶兼々、具体的な変革内容とこれからの新たな取り組みに対する決意を述べさせていただきます。

当院は、平成2年6月に整形外科・脳神経外科・中枢神経・呼吸器・循環器疾患等に対するリハビリテーション治療専門に特化した、全国でも初めての大学病院として発足しました。当初は、人工股関節治療による全国でも有数の施設として発展してきましたが、人口の

高齢化に加えて医療情勢の大きな変革に伴う病院経営の厳しさがつのり、当院もそれらに対応する形で少しずつ診療体制を整えて参りました。即ち、手術がメインの整形外科中心の診療体制から、内科系の重症特定疾患患者さんの治療も含めた診療体制へと徐々に移行してきました。

しかしそれでも当院の潤滑な運用に関しては不十分であったため、次第に整形外科の手術を藤が丘病院へ移して整形外科領域を縮小するとともに、昨年(平成20年)4月からはリハビリテーション科の水間正澄教授が赴任され、同10月からは診療科長として、現在、昭和大学のリハビリテーション診療の拠点として発展中であります。

さらに当院の診療体制を新たに確立すべく、本年6月にスポーツ整形外科と健康スポーツ内科を新設し、それぞれ筒井廣明先生と橋本 通先生に担当して頂き、この9月からはリハビリテーション科に加えて、外科系診療科と内科系診療科の2科が設立され、それぞれの責任者には筒井廣明先生と橋本 通先生に就いて頂き、当院はこの3診療科体制のもとで、今後の病院運営を担って行くことになりました。今後、この体制を押し進めて、当院の運営強化をはかっていく所存であります。

さらに本年9月24日からは藤が丘病院から眼科が全面的にリハビリテーション病院に移って参りました。今後は当院1階に外来診療部門を新設し、4階病棟に白内障を中心とする患者さんに入院して頂くこととし、手術室を眼科専用にして毎日手術が行える体制を整えて、これまで半年近く予約がいっぱいだった患者さんをよりスムーズに手術を受けて頂けるようにしました。

また、眼科の移転に伴いまして、G階の生理検査室もG階の外来側奥に移転し、その手前に言語療法室も移転致しました。そしてこれまでの生理検査室であった所には、新たに十分なスペースを持った医療相談室を設置しました。皆様方のいろいろなご要望に一層お応えできるものと考えております。

いずれにしましても、この9月から、当院にとりましては開院以来の大改革に踏み切ったところ です。眼科の患者様には大変御面倒をおかけすることになると存じますが、これまでの藤が丘病院での診療と同様に、引き続き当院につきましても何卒宜しくお願ひ申し上げます。

今後当院の存続をかけた新体制の下で職員一同も心機一転、一層の努力を重ねてまいる所存でございます。医療安全に加えて、院内感染にも十分配慮しながら、患者さんの健康回復の一役を担う活気ある病院を目指して頑張りたいと思います。

最後になりますが、ご協力ご支援の程、今一度熱くお願ひ申し上げます。

## お知らせ：『外科系診療科に関して』 外科系診療科責任者 准教授 筒井廣明



当院は9月より診療体制の変更を行い、整形外科、スポーツ整形外科、眼科、麻酔科の4つを外科系診療科としてまとめ、その責任者を拝命しました。

これに先立つ本年6月にスポーツ整形外科という診療科が新設され、小生と三原研一講師が整形外科から配置転換しました。当院はリハビリテーション治療を必要とする患者さんのための特例病院として開設されました関係で、リハビリテーションを治療に取り入れている診療科を掲げ、診療を行ってまいりました。外科系としては主として整形外科が担当し、以前より一般診以外に肩・肘・膝・股関節などの関節疾患や脊椎疾患を中心に専門外来を開設して治療を行ってまいりましたが、今回の診療体制の変更に伴い、一般診は当院での初診

は受け付けず、これに該当される患者さんは藤が丘病院の整形外科を受診して頂くことになりました。藤が丘病院の整形外科で診察の結果、リハビリテーション治療が必要となった場合には、その依頼を受けて基本的には当院の一般診にて治療をするようになっています。

専門外来に関しましては、初診の患者さんも従来通り当院へ電話などで予約を入れ直接受診することが可能で、従来の整形外科の肩・上肢・膝・股関節・脊椎に加え、スポーツ整形外科としての肩・上肢診が新設されました。従来より、多くのスポーツ選手が受診され治療をさせて頂いておりましたが、スポーツ整形外科の新設に伴い、理学療法士との連携による治療レベルの向上を図っていただけるようになりました。

新設された眼科は、入院・外来共にすべてを藤が丘病院から当院に移転し、診療効率の向上が図れるようになっております。

これらの外科系診療科が当院において十分な医療が出来るよう運営に努力していきたいと考えていますので、今後ともご理解とご協力の程よろしくお願ひいたします。

## お知らせ：『内科系診療科に関して』 内科系診療科責任者 准教授 橋本 通



診療体制の変更に伴い、当院の神経内科、循環器内科、呼吸器内科、健康スポーツ内科の4科をまとめて内科系診療科とし、その責任者を拝命致しました。当院は、昭和大学病院や藤が丘病院、昭和大学横浜市北部病院などの急性期対応の病院とは異なった医療体制に基づく病院です。当院の対象患者さんは病態の比較的安定した患者さんを中心に、もっぱらリハビリテーションに関して診断及び治療を行う慢性期対応の病院という位置づけになります。したがって、看護体制は主にリハビリテーション治療を行う慢性期疾患を中心とする病棟のため、15対1看護(入院患者さん15名に対し看護師1名)となり、7対1看護や10対1看護の急性期病院の看護体制ではありません。当院の入院患者さんの特徴として、病気の重症度は比較的安定しておりますが、介護度の高い患者さんが多いことが挙げられます。また、藤が丘病院に依頼する検査も多く、入院患者さんにはご迷惑をお掛けしております。当院は、急性期病院とは様々な点で医療体制が異なっていることをご理解いただき、さらなるご協力をお願いする次第です。内科系診療科の入院患者さんの多くは、藤が丘病院での急性期治療にて病態が安定した後に、主にリハビリテーションを目的に転院し、神経内科では神経・筋疾患や脳血管疾患などを対象にリハビリテーションを、呼吸器内科では慢性肺疾患(COPD)などに呼吸器リハビリテーションを、健康スポーツ内科では循環器内科入院中の急性心筋梗塞などの心血管疾患に心臓リハビリテーションを行っています。神経内科、呼吸器内科、循環器内科の内科系三科の入院患者さんは藤が丘病院当該科医長の管理下にありますが、内科系診療科としては各科の対応だけでなく4科の協力のもとで運営し、さらにリハビリテーション科とも密なる連携のもと入院患者さんに、より良いリハビリテーションを提供できるよう努力していく所存です。

健康スポーツ内科では心臓リハビリテーションを行うほかに、学校や職域等における健康診断などで指摘された心雑音や心電図異常、不整脈等の心疾患を有する例に対する運動許容条件の評価、若年アスリートやスポーツ愛好家、糖尿病、メタボリックシンドロームなど積極的な運動療法が必要な内科的疾患などを有する例に、安全に運動が可能か運動の適否に関する循環器的な評価を行います。

医療を取りまく経営環境は厳しい状況が続いております。内科系診療科だけでなく外科系診療科、リハビリテーション診療科とも協力し、より質の高い医療の提供と経営環境の改善に向け、まず医師が率先して意識改革を進め、教職員一同さらなる努力を重ねる所存でございますので、何卒よろしくお願ひ致します。

## お知らせ：『リハビリテーション診療科について』

リハビリテーション診療科 責任者 教授 水間正澄



本年9月に内科系診療科及び外科系診療科の科長が選出され3診療科(内科系診療科、外科系診療科、リハビリテーション診療科)による運営体制が漸く整いました。

リハビリテーション診療科はリハビリテーション科の1科のみで構成されますが、入院診療では本年6月から回復期リハビリテーション病棟(54床)を開設していただき、従来からの一般病棟とあわせて65床を担当することになりました。対象は多岐にわたりますが亜急性期以降の幅広い障害を対象といたします。回復期リハビリテーション病棟は在宅復帰を主たる目的とする病棟ですが、受け入れには疾患や発症からの期間など一定の条件を満たす必要があります。今後さらに力を入れてゆきたいのは藤が丘病院をはじめとした昭和大学附属の急性期病院との連携です。リハビリテーション科のある昭和大学病院、藤が丘病院、横浜

市北部病院からもからの受け入れ患者比率は50%前後が続いておりますが、この比率をたかめてゆきたいと考えております。現在、他の付属病院からもより迅速に受け入れることのできるシステムを準備しているところです。そのため、従来にも増して内科的管理を必要とする患者さんが増加することが予測されますので内科系診療科からのサポートをいただくことになっております。リハビリテーション病院の役割も変化しつつありますが、昭和大学全体での一貫性・継続性のあるリハビリテーション医療の実現を目指し努力しております。外来診療は一般外来のほか小児、義肢・装具、車いす、摂食嚥下などの特殊外来を引き続きおこないます。また、退院患者のフォローアップや紹介患者の診療や相談、障害児の外来診療・訓練も行う地域のリハビリテーションセンター的な役割も担うべきであると認識しております。

医学教育においても特にチーム医療教育には最も適した施設であると考え、医学部はもとより4学部の卒前教育に貢献できればと考えております。研究面では基礎医学教室や保健医学学部、東京都市大学など学内外との共同研究も検討中です。教育・研究面につきましてもご理解をいただければと思います。

今後は内科系診療科、外科系診療科とともに当病院が特色ある総合的なリハビリテーション病院として発展できるよう努力して行く所存です。何卒よろしく願い申し上げます。

## お知らせ：『はじめまして、眼科です！』

眼科 教授 谷口重雄

はじめまして、眼科です！

はじめまして。私たち眼科は、9月24日木曜日から、昭和大学藤が丘リハビリテーション病院で診療を開始させていただきました。従来、眼科は藤が丘病院開院当初から藤が丘病院2階で外来を行ってまいりました。入院診療は7階・5階の混合病棟を使用、手術は第2手術室にて火、木曜日の週2回のみ施行してまいりました。しかし眼科診療の需要の増加に伴い、眼科手術待機患者さんが500人を超え、待ち期間が半年待ちになってしまったこと、麻酔科医師の中央手術室集約化の必要性などの理由から、眼科がリハビリテーション病院に移動することとなりました。

今回、新しく清潔感あふれる外来が開設され、私たち眼科スタッフ一同、心機一転、新たな気持ちでオープンを迎えることができました。当初、外来スペースの拡大に伴い、多少の混乱も危惧されていましたが、スタッフのみなさんのご協力により、スムーズに外来診療もスタートできました。また念願であったほぼ毎日使用できる手術室が整ったことにより、今まで以上に手術を行うことが可能になりました。待ち期間が長く大変ご迷惑をおかけしていた患者さんにも、今までより一層早く手術のご案内ができるかと思います。病棟も、従来は混合病棟でかつ階が分散していましたが、このたび入院病棟を4F病棟に集約させることができたため、今までよりスムーズに入院・手術をうけていただくことが可能になりました。

新たな場所、スタッフで診療を開始させていただいたにも関わらず、大変スムーズに移行できたのは、病院を挙げてのみなさんのご協力があったからこそできたものと思います。この場を借りて厚くお礼申し上げます。また、他科の先生方にはこのたびの移動に伴い、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。今後もしろいろお世話になることが多々あると思いますが、お互いの協力・協調のもとに仲良く診療していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

最後になりますが、患者さんには、このたびの移動に伴いご案内および受診システムの変更など、多大なご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。今後、患者さんにとってよりよい眼科を目指し、スタッフ一同、一層努力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 誌上セミナー：『とびひについて』

皮膚科 講師 内田隆夫

「とびひ」について話します。

「とびひ」とは俗名で、正式病名は伝染性膿痂疹(でんせんせいのうかしん)と言います。細菌による皮膚の感染症です。「とびひ」はさらに2種類に分けられます。

1つはみずぶくれができて皮膚がむける水疱性膿痂疹で、みずぶくれの内溶液や皮膚がむけた部位からしみ出て来る液によってその周囲へと広がって行きます。

もう1つは炎症が強く、かさぶたが厚く付いた痂皮性膿痂疹で、発熱、リンパ節腫脹などの全身症状を呈することもあります。水疱性膿痂疹は黄色ブドウ球菌が、痂皮性膿痂疹は溶血性レンサ球菌が原因菌です。接触によってうつって、火事の飛び火のように広がるから、たとえば「とびひ」と言います。あせも・虫刺され・湿疹などをひっかいたりして「とびひ」になります。また、鼻孔の入り口には様々な細菌が常在しているため、幼児・小児で鼻くそをほじるくせがあると、鼻の周囲からとびひが始まったり、その手であせもや虫刺されなどをいじることで「とびひ」になってしまいます。

治療は抗生剤の塗り薬と飲み薬が主体になります。病変部の清潔が大切で、シャワーでしっかりと細菌を良く洗い流す必要があります。「とびひ」は学校伝染病になっており、医師にみてもらって登校許可がでるまでは登園・登校できません。治療して、病変部をガーゼや包帯できちんと覆って露出していなければ、概ね登園・登校許可を得られます。病変が広範囲の場合は休ませるほうがよいでしょう。

## TOPIX

### 税の相談会を藤が丘病院で開催

平成21年11月12日(木)に 藤が丘病院1階憩いのひろば前にて、緑税務署による税の相談会が開催されました。

当日は外来患者の皆さま方が、医療費控除などについて相談されたようです。



### 安全週間(11月22日~28日)

厚生労働省では11月25日を含む1週間を「医療安全推進週間」と定め「患者様の安全を守るための医療関係者の共同行動」の推進を図っています。その活動として、藤が丘病院とリハビリテーション病院では、医療安全に関する標語を入れたポスターを募集しました。38点のポスターが応募され、展示投票によって優秀作品が選ばれる予定です。優秀作品は次号に掲載いたします。

## クリスマスコンサート 開催のお知らせ



藤が丘病院

リハビリテーション病院

日時：平成21年12月22日(火)

日時：平成21年12月12日(土)

午後6時30分~

午後3時~

場所：藤が丘病院 1階会計センター前

場所：リハビリテーション病院 G階会計センター前

